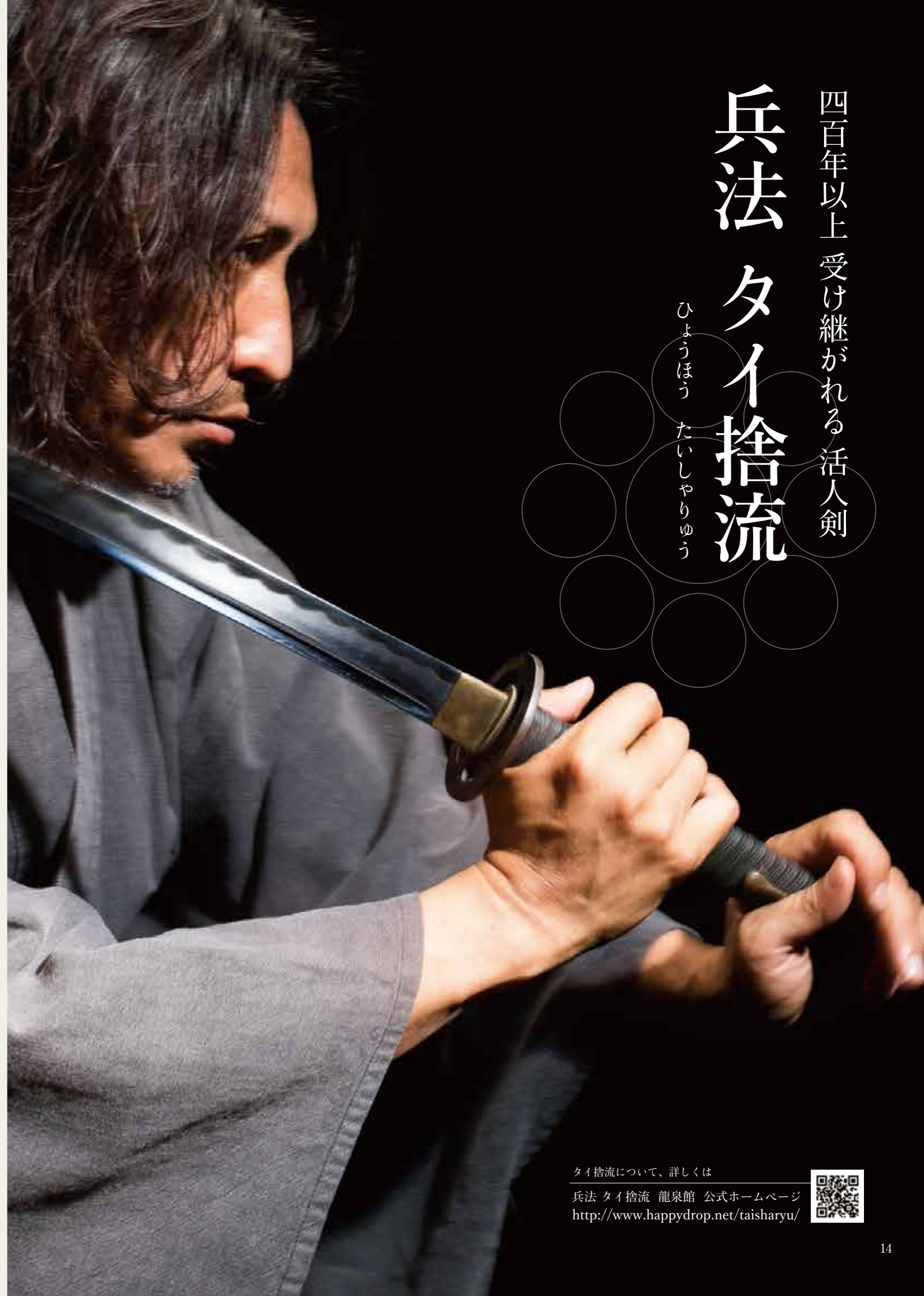


四百年以上受け継がれる活人剣

# 兵法 タイ捨流

ひょうぼう たいしやうりゅう



兵法 タイ捨流の流祖にして  
「東の新影流、西のタイ捨流」  
といわしめた剣豪



## 丸目蔵人佐長恵

まるめくらんどのすけながよし

### 天

文九年（一五四〇）八代郡に生を受け、若くして上京。上泉伊勢守信綱に新陰流を学び、四天王の一人となった蔵人は、足利十三代將軍義輝に演武を披露して感状を受けます。その後、戦国の武將筑後山下の城主蒲池鑑廣や勇將柳川城主立花宗茂に新陰流を授けた免状は今も保存されています。やがて新陰流を離れて、より実践的な剣法タイ捨流を創始。西国に広め、示現流を採用する前の薩摩藩はタイ捨流を相伝しました。あるとき徳川幕府の指南役柳生但馬守宗矩に試合を挑み「童虎相搏つは非、天下を二分せん」と説得された話や、巖流島決闘のあとで訪れた宮本武蔵に、タイ捨流二刀の型を伝授したという話など、逸話も多く残ります。晩年は一武村（錦町一武）に隠棲して、村人とともに七町歩余の山野を拓きました。その田畑や水路や植林地は、今も恵みをもたらし続けています。人柄良く、村人に慕われた蔵人。元和四年（一六一八）、京都からローマに送ったイエズス会宣教師の報告書には、高潔で品格ある蔵人の風貌が描かれています。寛永六年（一六二九）、没。八十九歳でした。墓前には追善のために村人で建てた石灯籠があります。



錦・くらんど公園

道の駅錦に隣接する「くらんど公園」には丸目蔵人と少年剣士の像を建立しています。大きな遊具のある「わくわく冒険広場」と「わんぱく広場」、水辺の生き物を観察できる「錦池」などがあり、休日には家族連れで賑わいます。



剣豪「丸目蔵人」顕彰  
少年剣道選手権大会

晩年を錦町で過ごした丸目蔵人を顕彰する剣道大会には、毎年九州各地から多くの小・中学生剣士が参加します。練習の成果を発揮して、白熱した熱戦が繰り広げられます。



丸目蔵人佐長恵の墓  
〈町指定有形文化財〉

一武切原野堂山にある、剣豪丸目蔵人佐の墓。晩年、徹斎と号した蔵人佐は相良氏から与えられた切原野の土地を開いて農耕にいそしみ、89歳でこの世を去るまで晴耕雨読に明け暮れたそうです。法名を雲山春龍居士といひます。

タイ捨流について、詳しくは

兵法 タイ捨流 龍泉館 公式ホームページ  
<http://www.happydrop.net/taisharyu/>

